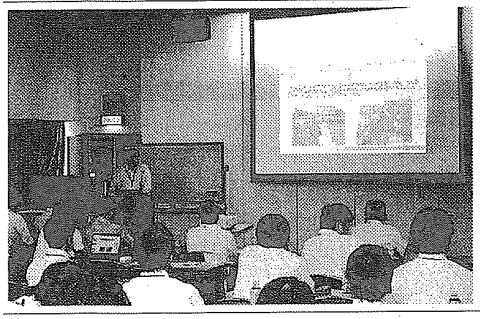
建設通信新聞
2023（令和5）年8月31日

最優秀に木村さんと友池さんを選定

建コン協の若手技術者交流会

建設コンサルタンツ協会九州支部（田中清支部長）は29日、福岡市の八重洲博多ビルで、2023年度若手技術者交流会を開いた＝写真。オンラインを含め約140人が参加し、10人の若手技術者が日ごろの研究成果などを発表した。審査の結果、発表部門は木村有花さん（東京建設コンサルタント）の「気候変動を考慮した緑川ダム再生方策の検討」、論文部門は友池昌俊さん（協同エンジニアリング）の「津波浸水対策を目的とした海岸のオートフラップ式水門の耐震、耐津波設計」が最優秀賞に輝いた。



冒頭、あいさつした眞間修一総務・企画部会長は「発表では、声は大きく元気に、時間は絶対に守るように」とプロポーザルでの発表も見据えたアドバイスを送るとともに、「今回の発表が皆さんの技術力のさらなる向上と、この業界で働き続けるモチベーションになると期待している」と述べた。

発表会は、質疑応答を含め1組16分の持ち時間で発表した。今回から発表部門と論文部門でそれぞれ最優秀賞と優秀賞を選んだ。優秀賞は、発表部門が岸航平さん（日本港湾コンサルタント）の「矢板式護岸の緊急復旧対応について」、中谷郁也さん（長大）の「希少植物における移植方法及び定量的評価の確立」、論文部門が海部貴裕さん（日本工営）の「国道拡幅／河川改修を考慮したPC単純プレテンホロー桁橋の詳細設計」、山本凌雅さん（八千代エンジニヤリング）の「港湾施設設計におけるBIM／CIM活用事例紹介」だった。

このほかの発表テーマと発表者は次のとおり（敬称略）。

▽落石対策における谷止工詳細設計＝東浩輝（共同技術コンサルタント）▽国営公園内橋梁の補修設計事例＝吉﨑暢晃（サンコーコンサルタント）▽緑川中流地区におけるCIM作成について＝落合要（九州建設コンサルタント）▽4橋梁下部工施工時に出現した想定外の地質への対策検討＝富高直人（東九州コンサルタント）。